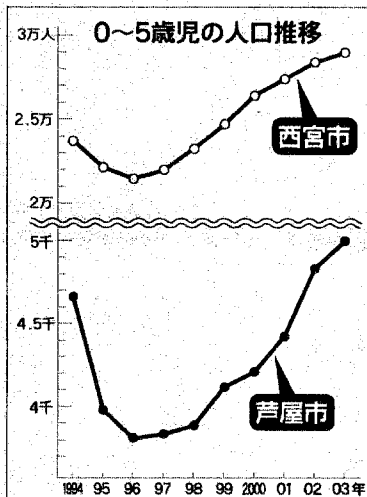


西宮・芦屋

0～5歳児が3割増

7年間で震災前を上回る



7月1日現在の人口は、西宮市45万4949人、芦屋市8万9177人で、昨年の増加率は県内それぞれ1、2位を記録。このうち0～5歳児は、西宮が約2万9000人(96年比35%増)、

マンション価格下がり

阪神大震災(95年1月17日)で大きな被害を受けた兵庫県西宮、芦屋両市で、0～5歳児の人口が震災翌年からの7年間で3割以上も増え、震災前を上回っていることが7日分かった。この数年、比較的安価な分譲マンションが次々と建てられ、子育て世代が流入したためだ。

芦屋が約5000人(同31%増)。いずれも、震災前の94年より、それぞれ約5200人、約330人上回っている。芦屋市に隣接する神戸市東灘区でも、出生数が震災前年の94年の1829人から02年は2195人に増加。出生率は同市9区のうち最高を記録。背景にあるのが、不況の深刻化や地価の下落。企業が社宅や工場などを

手放したことで、マンション建設が相次いだ。3LDKで2000万～3000万円台前半という物件も少なくなく、ある住宅販売会社の社員(45)は「30歳代の子育て世代が主なターゲット。需要は多い」と話す。一方、市側は戸惑い気味だ。西宮市は昨年度、増加する児童・生徒に対応するため小、中学校3校を4億円で増改築。保育所も震災後に4カ所増やしたが、市内42保育所(定員3743人)の今

年度の待機児童は263人に上っている。昨年、初めて待機児童が出た芦屋市では今年度、34人に増えた。

津村直行・芦屋市児童課主幹は「少子化が進んでいただけにありがたいことだが、今の状態は予想外。保育所を新設しようにも、子どもが今後どれだけ増えるか予想が難

しい」と話している。【坂口裕彦、大場弘行】大谷信介・関西学院大教授(都市社会学)の話。都市部に入が移り住む「都心回帰」の流れの中で、文教地区のイメージもあって若い世帯が引き寄せられたのだろう。所得が増える10年、15年後にも定住しているかが、まちづくりの鍵を握る。